

私人嘉祥

守、次日野大納言入道、三方傳長老、足付御縁山名禪高、片木佐々木中務、片木其外諸侍不可勝計、

〔諸國〕年中行事大成六月十六日嘉定喰略○中 今日公家武家嘉定の御祝あり、所謂嘉定通寶十六

枚をもつて、食物を買調へて服すれば、其家に福あり、故に今に至て其例にならふ、又嘉通と勝と

訓近し、軍に勝の義に取て、特に武家吉兆錢とす、此日五色の團子、并に諸品の肴を、土器兩箇に盛

各自紙をもつてつゝ、み、水引をもつて是を結び、群臣に賜ふ等の儀有、是即十六錢をもつて、求得

るの遺意なり、諸家も亦此儀あり、或は孔方十六枚、米一升六合を家人に與ふ、其人々是をもつて、

雑品諸物を調て是を獻ず、又土器に杉葉を敷其上に大饅頭三箇を盛、杉原紙にてこれをつゝ、み

凡て物毎に十六の數を用ゆ、今夜諸家の中十六歳の人、振袖を切て詰袖とす、其土器にもる大饅

頭の正中に穴を穿ち、其穴より月を見る、これを月見といふ、今宵袖を留るの式なり、

〔慶長日件録〕慶長十年六月十六日、從掃部頭嘉定給之、梅龍軒より鮎鱈給之、略○中 家中嘉定如例、各

切麵、次自九條殿嘉定給之、

〔東都歳事記〕二月十六日 嘉祥御祝儀、諸侯御登城、良賤佳節を祝す、家々餅を製す、下賤の者は、錢

の事、かへつていにしへの例にかなへるにや、